

## 熊本震災新生児転院搬送と在宅人工呼吸器装着児避難入院 に関する調査に関して

### 1. 熊本市市民病院からの入院患児の搬送状況

#### ◎熊本震災初期対応：一次搬送

- ・熊本市市民病院N18名、G20名入院中（人工呼吸管理7名、CPAP6名）
  - ・熊大病院 10名
  - ・福田病院 11名
  - ・慈恵病院 2名
  - ・聖マリア病院 3名
  - ・久留米大病院 1名
  - ・鹿児島市立病院 3名
  - ・国立佐賀病院 2名
  - ・国立都城病院 1名
  - ・退院 1名

#### ◎市民病院から搬送以降の各病院からの二次搬送

- ・熊大病院：入院者18名+市民病院から受け入れ 10名
  - ・熊本労災病院 1名
  - ・院内転科 1名
  - ・九大病院 2名
  - ・聖マリア病院 1名
  - ・鹿児島市立病院 2名
- ・福田病院：入院者40名+市民病院から受け入れ 11名
  - ・久留米大病院 2名
  - ・今給黎総合病院 5名
  - ・鹿児島市立病院 1名

### 2. 発災以降の動き

#### ◎熊本市市民病院を中心に

4月14日

21:26 最大震度7/1前震発生

市民病院NICU：避難経路とトリアージの確認

4月16日

1:26 最大震度7の本震発生

1:28 準夜勤務者と合わせて看護スタッフ20名と2名の医師がNICUに在棟  
初期対応：建物にヒビが入り、安全のためコットを床に下ろす  
停電の状況、医療ガスのチェックを行う

1:45 最大震度6弱の余震発生

市民病院院長が全員避難を決断。

NICU：トリアージ順に避難（外階段を使い、新棟リハ室へ）

2:30以降 順次、近隣病院への搬送要請を開始

-----以下、一部省略-----

4:30過ぎから熊大病院へのピストン輸送開始(Drカー)

5時～7時 福田病院(消防の救急車)、慈恵病院(迎え搬送)、熊大第二陣、  
福岡子ども、国立佐賀病院、聖マリア病院へ搬送

7:15 防災ヘリで福岡子どもへ1名搬送

7:30ごろ タクシーで福田病院へ数名搬送

8時ごろ 熊大病院へ搬送(福岡市の救急車)、自宅退院1名

8:15 鹿児島市立病院へ2名搬送(鹿児島市立病院のDrカー)

8:30ころ 聖マリア病院へ搬送(救急隊) 2名

9時～15時 鹿児島県のヘリにより鹿児島市立病院 1名、九大病院へ2名ピスト  
ン輸送

13:30ごろ 国立都城病院へ1名搬送(長崎医療センターのヘリによる)

以上で熊本市民病院NICUの入院患児の搬送は完了

◎二次搬送

4月17日

11時～17時 福田病院より鹿児島市立病院へ5名搬送(鹿児島市立のヘリ)

13時ごろ 久留米大のDrカーが福田病院に救援物資を配達。帰路2名を搬送

15時ごろ 熊大病院から聖マリア病院へ2名搬送(Drカー)

### 3. 熊本市内及び近郊の在宅の人工呼吸器装着児

熊本市内及び近郊の在宅の人工呼吸器装着児は、50人強いる。熊本市近郊では、在宅人工呼吸器装着児には、全員かかりつけの地域の在宅診療医がいる。従って、全員がどこにいるかが把握できる。それらの子どもたちは、ライフライン、特に電気が途絶している間、入院して避難した。

4. 上記、熊本市民病院に入院中の児の搬送先の決定と受け入れ体制の用意がどのようなプロセスでされたのか、また、在宅の人工呼吸器装着児の入院先がどのように決まり、それが家族に伝達され、家族は入院できたのか。入院を受け入れた病院は、一度に多数の人工呼吸器装着児を受け入れるという大変な事態をどうやって意思決定し、準備し、実行したのかを埼玉医科大学総合医療センター小児科教授の田村先生が理事長をされる小児在宅医療支援研究会が調査委を実施中である。